

ネット社会のイベントに関する一考察 ～オフ会参加・開催経験を生かして～

○井上浩史郎（近畿大学 経営学部） 猪池雅憲（太成学院大学）

〈キーワード〉 オフ会 SNS ネット社会 非日常空間

1. はじめに

オフラインミーティング(オフ会)とは、ネットワーク上のコミュニティで知り合った人々が、現実世界で実際に集まって親睦を行う会のことである。ソーシャルネットワーキングサービス

(略: SNS)とは、人と人との繋がりを促進、サポートするコミュニティ型の会員サービスです。基本的な機能として、プロフィール機能・日記機能・ユーザ検索機能・コミュニティ機能・メッセージ送受信機能・ゲーム機能等を利用し、社会的ネットワークをインターネット上で構築するサービスの事である。

今回他のネットワークコミュニティ(電子掲示板・チャット・MMORPG、メーリングリスト等)でオフ会というキーワードを検索した結果、圧倒的に多くSNSでのオフ会というキーワードが該当した。多く開催されていることからSNSのオフ会を取り上げている。日本で登録人数が多いSNSとして、「mixi(ミクシィ)」、「モバゲータウン」、「GREE(グリーン)」というSNSが存在するが、その中で多くオフ会というイベントをしているのが「mixi」である。実際に筆者がオフ会参加、開催経験を活かし、オフ会はどのような役割をもっているのかを考察する。

2. 方法

1) 実際にオフ会に参加してみる

食事会・飲み会・カラオケ会・ダーツ会・ゴミ拾い会等のオフ会に15回参加。

2) 実際にオフ会を開いてみる

筆者が主催となりmixi内に「KID BEE」という大阪在住の方でダーツ好きなら誰でも参加できるコミュニティを設け、ダーツのオフ会を実施した。

3. 結果

1) オフ会参加結果

参加した13回のオフ会が食事を伴うものであった。座席指定型では一度座った座席で時間を過ごすという限られた条件だが、一部の人と深く話すことができるメリットがあった。一方で交流できる人数は限られてくるデメリットがある。立食型では、自由に行き来できるバイキング方式をとっている所がほとんどであり、自分が動けばたくさんの人達と交流を持てるタイプであった。自分

にとっても、相手にとっても、もうこの人と話したくないと思ってしまうばさっと離れることができるのが特徴である。

男女対面型は、司会者が順に自己紹介をさせて、合同コンパのような雰囲気を楽しむことができる。言葉につまったり、自己アピールが苦手な人には司会者が合いの手を入れてくれる。筆者は交流を持とうと下手なりに多くの人とコミュニケーションをとった。ほとんどの参加者が交流を求めて参加しているので、話しかけたら喜んで会話に応じてくれた。少ないコミュニティは5人程度から多いものでは200人以上の規模になる。気が合った人達はお互いに連絡先を交換し、オフ会以降も交流を続ける。食事を伴わないオフ会では、無料で参加できるゴミ拾いオフ会や実力が近いレベルの人達とのダーツ交流会であった。

2) オフ会開催結果

筆者の場合は、現実世界の友達3人とmixi内でダーツコミュニティをつくった。少し時間が経つにつれ、3人では少なく感じるようになり、ダーツが好きそうな人やメンバーに加えたいと思った人にメッセージを送った。また他の巨大ダーツコミュニティのトピックや関西地域限定で宣伝をしてコミュニティ人数を拡大した。コミュニティ内や個人的にメッセージのやりとりをし、メンバーと仲良くなった。

なぜ顔のみにえない人と楽しむのか、理由は二つある。一つには顔がみにえない分本音を言いやすい事である。本音で話して気に入らない相手ならすぐに離れることが可能であることである。二つ目には、普段出会うことができない人と知り合う事ができるため世界が広がるということである。そして、そのダーツコミュニティ内の掲示板で「オフ会をします」とコミュニティ内に書き込み、メンバー達が「参加します」と書き込んだり、直接連絡をしてくれたりし、集合場所・時間・費用・持ち物等の詳細をメールで連絡した結果、実際に実現した。

ダーツバーでは自己紹介からはじまり、メンバーのコミュニケーションの手助けになれるよう、司会・進行を務めた。メンバー達が盛り上がるようなゲームも用意した。現在は26名のコミュニティまで発展している。

4. アンケート

オフ会で知り合ったオフ会参加者・経験者 60 人に 2010 年 6 月に電子メールでアンケート調査を実施調査対象は 20 代男性 30 名、女性 30 名。

質問 1) オフ会で出会った人とその後も交流がありますか？

はい 43 人 いいえ 17 人

質問 2) 今後もオフ会に参加したいですか？

はい 49 人 いいえ 11 人

5. 考察

アンケートの結果より、オフ会以降に交流がある人が 72%、今後も参加したいと考えていた人が 82%であった。なぜネット上で出会った人達が現実世界で会うのかという疑問に対しては、オフ会に参加した人ほぼ全員が新しい出会いを求めているということが判明した。

ネット上からの出会いは今まで普段出会えないような人と会う事もでき、非日常空間という普段とは違う世界であることが良い刺激になっていると考えられる。もし、知り合いの紹介や共通の知人がいる場合ならば、周りの目や世間体などのしがらみを気にしてコミュニケーションをとらないといけませんが、オフ会で性格が合わない人なら無理にそれ以上関わる必要もないという利点がある。

以上の考察より、SNSが普及した背景を考えると友人であることを確認できるツールとして。どんなものか活用してみたいという好奇心から。ブログ・掲示板は投稿者コメントの制限ができない為。メーリングリストはスパム要素をもっている所があるから。閉鎖的社会的コミュニティ形成、「内輪」で楽しみ、仲の良いメンバーでの個室での会話のような魅力がある。同じ趣味・趣向を持った人と新たに知り合えること。招待制によってある程度安心感があるから（現在は招体制はない）などが挙げられる。

他には、携帯電話、パソコンの個人所有の普及が著しく増加した結果、日常社会以外の人とのコミュニケーションがとれるようになり、これらのことをSNSやブログ、出会い系サイトが満たしたといえると考えられる。反面SNSでは、ネット利用の低年齢化やストーカー、勧誘目的、発言規制、異性との出会い目的、依存症、荒らし問題等があり利用には非常に注意が必要である。ネット社会を活用することとネット利用による事件・犯罪は切り離せない関係であることを認識して利用すべきである。

6. 結論

はじめはオフ会という未知の世界に恐れ、何か怪しい存在だと思っていたが、新しい事に挑戦する行動力のある人達がオフ会に参加していると実感した。次第に筆者も非日常空間に楽しみを覚え、一緒に食事や趣味を楽しむことができる友人ができた。筆者は決して喋るのが得意な方ではないが、たった 15 回のオフ会で 50 人を超える仲間達とできた真実は紛れもない事実である。

オフ会はコミュニケーションの一つとして、人脈形成の場として成長、普及してきている。オフ会が人と人とのコミュニケーションの一助となりえているのがアンケート調査から確認できた。現在 SNS だけで 5000 以上ものオフ会コミュニティが存在しオフ会が開かれている。インターネット普及により誕生したイベント「オフ会」。年々、イベント数・コミュニティ・参加人数が増えてきていることからこれから先も進化・洗練・浸透していくことであろうと考えられる。

以上の事からオフ会はイベント業界にとって、一つのイベントとしての存在になるのではいだろうか。出会った人と結婚した人、一生の友人ができた人、人生を変える運命的な出会いを提供してくれるツールであることは言うまでもない。もしもまだオフ会に参加されたことがない方がいるならばぜひ参加して、非日常空間を実際に体感してもらいたい。

謝辞

関西オフ会「関西リア友♪」代表 香椎様、ぶっとんだことで感動を与える「ぶっとび団体～ Crazy. Com～」代表 伝虫様この場をおかりしお礼申し上げます。

参考文献

- ・ベン・メズリック, 夏目大(2010) facebook 世界最大の SNS でビル・ゲイツに迫る男, 青志社
- ・SE 編集部 (2007) : SNS の研究 あなたはまだ「マイミク」のことが好き?, 翔泳社
- ・夏原武他 (2007) : 危ないミクシィ大流行! SNS の闇, 洋泉社
- ・高橋暁子 (2008) : ミクシィをやめる前に読む本—トラブルを回避する 69 のツボ, 双葉社
- ・廣瀬英彦 (2000) : 情報の倫理—インターネット時代を生きる, 富士書店
- ・寺崎美保子 (2005) : ケイズプロダクション SNS を深〜く知って長〜く楽しむための本, ラトルズ社
- ・フリー百科事典ウィキペディア (2010.6.10) 「オフ会」「SNS」